

エコアクション21

2021年度 環境経営レポート

活動期間 2021年5月～2022年4月
発行日 2022年8月1日
次回発行予定 2023年8月

発行者 **四国メンテナンス株式会社**

香川県高松市仏生山町甲381番地

電話 (087)889-1588

作成 松本 聡 (環境管理責任者)

承認 松本 寿 (代表取締役)

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

四国メンテナンス株式会社

松本 寿

(2) 所在地

〒761-8078

香川県高松市仏生山町甲381番地

(3) 事業の概要

電気設備、各種消防用設備、防犯設備の施工及び保守・点検・関連機器販売、
ネットワーク設備の構築及び保守・点検・関連機器販売

創立：1966年6月15日

資本金：2,500万円

建設業者許可：香川県知事（特-23）第380号

(4) 事業年度

5月～翌4月

(5) 事業の規模（2021年度）

工事及び保守・点検受注件数：約898件

売上：約226,208千円

敷地面積：約1,200㎡（第2駐車場を含む）

(6) 従業員数

正社員23名、パート・アルバイト2名（2022年7月1日時点）

(7) 環境管理責任者氏名及び連絡先

松本 聡

電話：087-889-1588

2. 対象範囲

(1) 認証・登録範囲

本社（エコアクション21組織図は次項に記載）

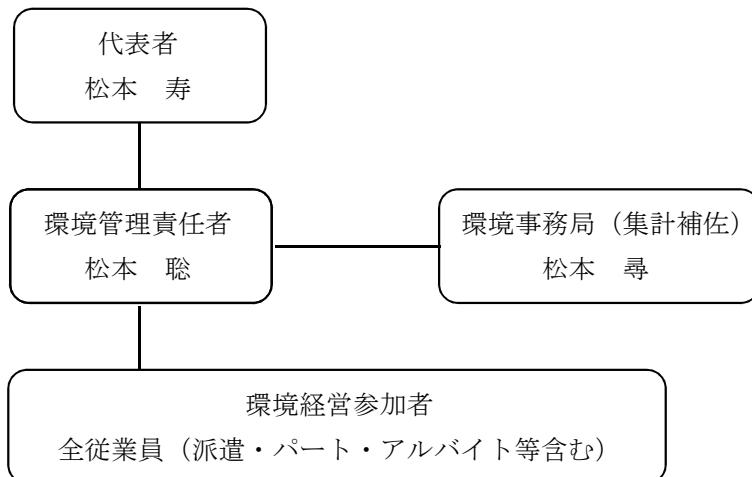
(2) レポートの対象期間及び発行日

活動期間：2021年5月～2022年4月

発行日：2022年8月1日

次回発行予定：2023年8月

エコアクション21組織図



区分	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営を実施する為の設備、費用等の準備 ・環境経営方針の策定、見直し及び参加者への周知 ・環境経営目標、環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境関連法規取りまとめと遵守状況を確認 ・環境経営レポートの承認、評価 ・緊急事態の訓練結果と評価の承認 ・環境管理責任者への指導、助言
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規取りまとめと遵守状況のチェック ・環境経営目標、環境経営計画書を作成 ・参加者の環境経営取組の結果を代表者に報告 ・環境経営レポートの作成、公開 ・エコアクション活動の統括事務 ・環境経営の各種集計業務 ・緊急事態の想定と手順書作成、訓練の実施と評価 ・環境への負荷の自己チェックの作成 ・環境への取組の自己チェックの作成 ・廃棄物関連書類の整理と保管
環境事務局 (集計補佐)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の各種集計業務等の補佐
環境活動参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針への理解と同意 ・環境経営方針に沿った積極的な参加、活動 ・エコアクション活動への提案 (フィードバック)

3. 環境経営方針

四国メンテナンス株式会社 環境経営方針

<基本理念>

四国メンテナンス株式会社は、その環境経営活動を通じて社会への奉仕と環境対策に積極的に取り組み、自社の発展と共に人と自然との美しい共存関係を目指します。

<行動指針>

1. 当社は、全社員が以下の各項目において重点的に取組みます。
 - ① 無駄なエネルギーを消費しません。（石油系燃料及び電力の消費削減）
 - ② 廃棄物を減らし、また適正に処理します。（廃棄物削減、分別およびリサイクル）
 - ③ 限りある資源を有効利用します。（水資源、資材の節約）
 - ④ 環境を考慮した製品、サービスを提供します。（省エネ製品、サービスの提供）
2. 当社は、全社員が自発的、積極的に地球環境に優しい行動を心がけます。
3. 当社は、経営上の課題とチャンスを整理し、環境経営の継続的改善を進めます。
4. 当社は、その事業活動に関わる環境関連各法案等を常に認識し、またこれを遵守します。

制定日：2018年5月1日
香川県高松市仏生山町甲381番地
四国メンテナンス株式会社
代表取締役 松本 寿

4. 環境経営目標

エコアクション21活動に関して、当社の環境経営目標は「CO2排出量の削減」、「産業廃棄物排出量の削減」、「一般廃棄物排出量の削減」、「水総使用量の削減」、「本業における環境への取組」の5項目とし、2017年度の結果を基に下記の通りに定めた。

環境経営目標（単年度）

目標値設定日：2018年7月1日

目 的		基 準 2017年度	目 標* 2021年度
CO2排出量の削減	重量 (kg-CO2)	41,030	39,389
	原単位	163.0	156.5
産業廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	9,643	9,257
	原単位	38.3	36.8
一般廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	1,640	1,574
	原単位	6.52	6.26
水総使用量の削減	体積 (L)	120,000	115,200
	原単位	476.8	457.7
本業における環境への取組		—	廃消火器、回収電池の 確実なりサイクル

□基準の集計期間は2017年5月～2018年4月 □原単位：排出量／売上（単位は百万円）（基準年度売上は251,666,869円）□電力のCO2発生量については2017年公表、四国電力報告の調整後排出係数0.529(kg-CO2/kWh)を使用した。※排出量目標：CO2、産業廃棄物、一般廃棄物、水総使用量は2021年度 基準年比96% □事業活動に伴い取扱われる化学物質は無い為、目的から除外した。

目 的		基 準 2017年度	目 標*			
			2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
CO2排出量の削減	重量 (kg-CO2)	41,030	40,620	40,209	39,799	39,389
	原単位	163.0	161.4	159.7	158.1	156.5
産業廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	9,643	9,547	9,450	9,354	9,257
	原単位	38.3	37.9	37.5	37.2	36.8
一般廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	1,640	1,624	1,607	1,591	1,574
	原単位	6.52	6.45	6.39	6.32	6.26
水総使用量の削減	体積 (L)	120,000	118,800	117,600	116,400	115,200
	原単位	476.8	472.0	467.3	462.5	457.7
本業における環境への取組		—	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル

□基準の集計期間は2017年5月～2018年4月 □原単位：排出量/売上（単位は百万円）（基準年度売上は251,666,869円）□電力のCO2発生量については2017年公表、四国電力(株)報告の調整後排出係数0.529(kg-CO2/kWh)を使用した。※排出量目標：CO2、産業廃棄物、一般廃棄物、水総使用量は2018年度 基準年比99%、2019年度 基準年比98%、2020年度 基準年比97%、2021年度 基準年比96% □事業活動に伴い取扱われる化学物質は無い為、目的から除外した。

目 的		基 準 2021年度	目 標*			
			2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
CO2排出量の削減	重量 (kg)	39,523	39,127	38,732	38,337	37,942
	原単位	174.7	173.0	171.2	169.5	167.7
産業廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	4,751	4,703	4,655	4,608	4,560
	原単位	21.0	20.8	20.6	20.4	20.2
一般廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	1,019	1,009	999	988	978
	原単位	4.50	4.46	4.41	4.37	4.32
水総使用量の削減	体積 (L)	90,000	89,100	88,200	87,300	86,400
	原単位	397.9	393.9	389.9	385.9	381.9
本業における環境への取組		—	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実な リサイクル

□基準の集計期間は2021年5月～2022年4月 □原単位：排出量／売上（単位は百万円）（基準年度売上は226,208,241円） □電力のCO2発生量については2021年7月公表、四国電力㈱報告の調整後排出係数0.574(kg-CO2/kWh)を使用した。 ※排出量目標：CO2、産業廃棄物、一般廃棄物、水総使用量は2022年度 基準年比99%、2023年度 基準年比98%、2024年度 基準年比97%、2025年度 基準年比96%（2022年度～2025年度の結果集計に使用する排出係数は0.574(kg-CO2/kWhとする） □事業活動に伴い取扱われる化学物質は無い為、目的から除外した。

5. 環境経営計画

区 分	活動項目	内 容	役割	担当	
①CO2排出量の削減	電力消費量に関する取組	1. エアコンの温度管理	室内設定温度を夏季28℃、冬季22℃に定める。	計画	松本聡
		実施	全員		
		2. クールビズ、ウォームビズの実施	室内での着衣の調節、ブランケット等の使用により、空調に頼ることなく快適な作業環境が得られるように各自で対応する。	計画	松本聡
		実施	全員		
		3. PC等の電源切り忘れ撲滅	PC、プリンター、コピー機などの機器について、外出及び退社時の電源切り忘れを防止する。	計画	松本聡
		実施	全員		
	ガソリン消費量に関する取組	4. エアコン、空気清浄機のフィルター清掃	エアコン室内機、空気清浄機のフィルター及び内部、グリル部の清掃を実施する。	計画	松本聡
		実施	松本聡		
		5. 照明器具の清掃	照明器具の笠、反射板等の清掃を実施し、必要に応じて照度を調節する。	計画	松本聡
		実施	全員		
		6. 照明のLED化	事務所内の照明を蛍光灯、電球タイプからLEDタイプへの変更を実施する。(実施済みは継続使用)	計画	松本聡
		実施	全員		
		1. 空気圧チェックの実施	タイヤ空気圧のチェック(充填)を月1回の頻度で実施し、車両の燃費向上を期待する。月別実施記録表を作成し、実施の際に各車両担当者は日付を記入する。	計画	松本聡
		実施	全員		
2. 不要なアイドリングの中止	車両の暖気及び待機時間中の不要なアイドリングを控えるよう定める。	計画	松本聡		
実施	全員				
3. 移動事務作業車の導入	車内で事務作業が可能な移動事務作業車を作成し、リモートワーク、時短、ガソリンの節約を推進する。(2020年12月～)	計画	松本寿		
実施	全員				
4. 直行直帰の推奨	ガソリンの節約、時短、事務所内でのコロナ感染防止対策を含め、社員の直行直帰を推奨する。(2021年2月～)	計画	松本寿		
実施	全員				
②産業廃棄物の削減	1. 廃棄前に仕分けし、リサイクルを推進する	処分前の照明器具、電線、その他の設備機器類を素材別に分別し、産業廃棄物の削減と資源のリサイクルを推進する。	計画	松本聡	
実施	全員				
③一般廃棄物の削減	1. ごみの持ち帰りを減らす	講習会、会議等で頒布される資料の持ち帰り、取引先からのカタログ類の受け取りを最小限にする。	計画	松本聡	
		実施	全員		
	2. ごみ分別の徹底	社内のごみ箱に分別内容を表記し、確実な分別廃棄を実施する。	計画	松本聡	
		実施	全員		
	3. ミスプリントを減らす	プリント及びコピー前の設定確認を確実にしミスプリントを減らす。コピー機の操作面にはミスプリント防止を喚起する注意書きを貼付け、注意を促す。	計画	松本聡	
		実施	全員		
	4. プリンター用紙消費量の削減	プリンター使用時に、積極的に使用済み用紙の裏面を再利用する。	計画	松本聡	
		実施	全員		
	5. 社内の回覧文書を廃止する	社内の伝達事項に電子メールを使用し、プリントした文書の回覧を廃止する。	計画	全員	
		実施	全員		
	6. 社内の会議をサーバー上で実施する	共通サーバーのワークシート上に議題を列記し、各社員が自由に意見を記入する。全社員が揃う必要が無く紙類も節約できる。	計画	全員	
		実施	全員		

区 分	活動項目	内 容	役割	担当
④水総使用量の削減	1. 節水シールの貼付け、周知	社内の水道蛇口付近に節水を促すシールを貼付け、注意喚起する。水の消費を抑えるよう随時、告知する。	計画	松本聡
			実施	全員
	2. 水道元栓の水量調節	元栓で流量制限する事により、全ての蛇口で放水量を減らす。	計画	松本聡
			実施	全員
	3. トイレタンクの水量調節	ペットボトルの投入やボールタップの調整により、タンク内の水量を減らす。	計画	松本聡
			実施	全員
	4. 洗濯ボールの使用	洗濯機の運転時に洗浄促進効果のあるボールを投入し、運転時間の短縮及び洗剤、柔軟剤の使用量低減を図る。	計画	松本聡
実施			全員	
5. ストッパー付きノズルの使用	駐車場設置の散水ホース先端にストッパー機能を有するノズルを取付け、水使用量の低減を図る。	計画	松本聡	
		実施	全員	
6. トイレ用擬音装置の導入	2階トイレの便器横に擬似水流音を発生させる装置を取り付け、洗い水の使用量低減を図る。	計画	松本聡	
		実施	全員	
7. 和式便座（2階）の改修（新規）	老朽化した2階トイレの便器を節水型の洋式に改修し、使用水量の低減を図る。（2021年秋～使用開始）	計画	松本寿	
		実施	全員	
⑤本業における環境への取組	1. 廃消火器のリサイクル推進	使用期間を終了し回収した消火器は、排出者等の記録を行った後、全てリサイクル処理する。排出時に作成する受取伝票（排出時記録）記載の年間総数と実際のリサイクル引渡し総数とを照合し、伝票の記載漏れが無いか確認する。	計画	松本聡
			実施	全員
	2. 回収電池のリサイクル推進	使用期間を終了し回収した充電電池（主にニッカド）は、全てリサイクル処理する。リサイクル機関への発送の際には確実な絶縁処理を行い、対象外電池の混入など不備が無い様に注意する。	計画	松本聡
			実施	全員

6. 環境経営目標の実績

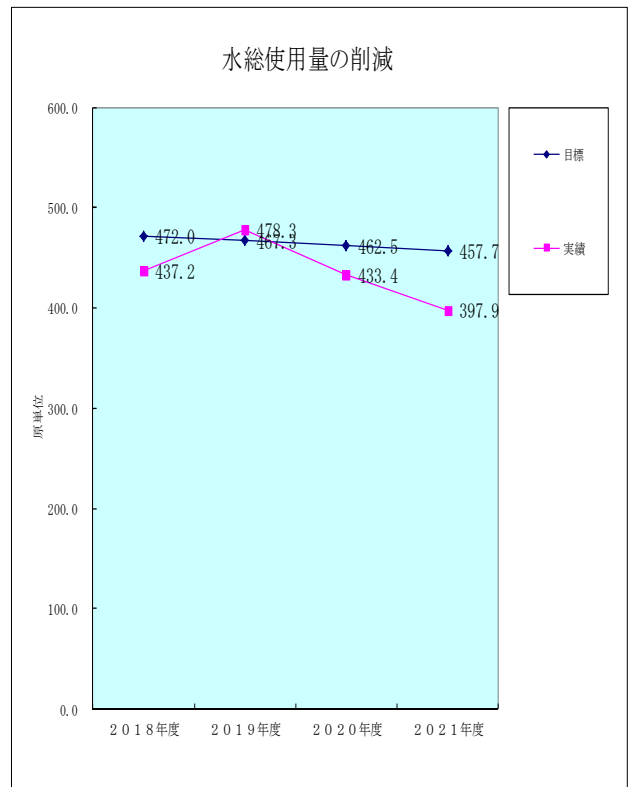
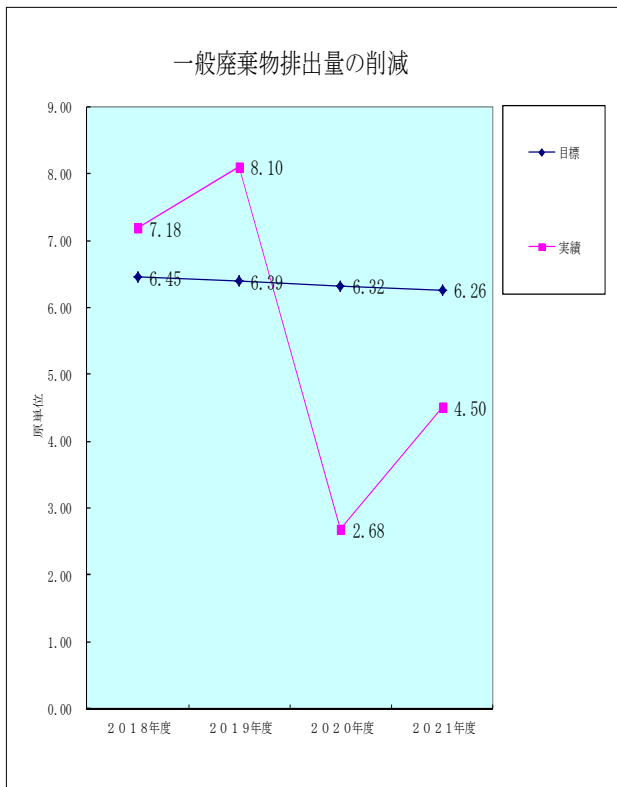
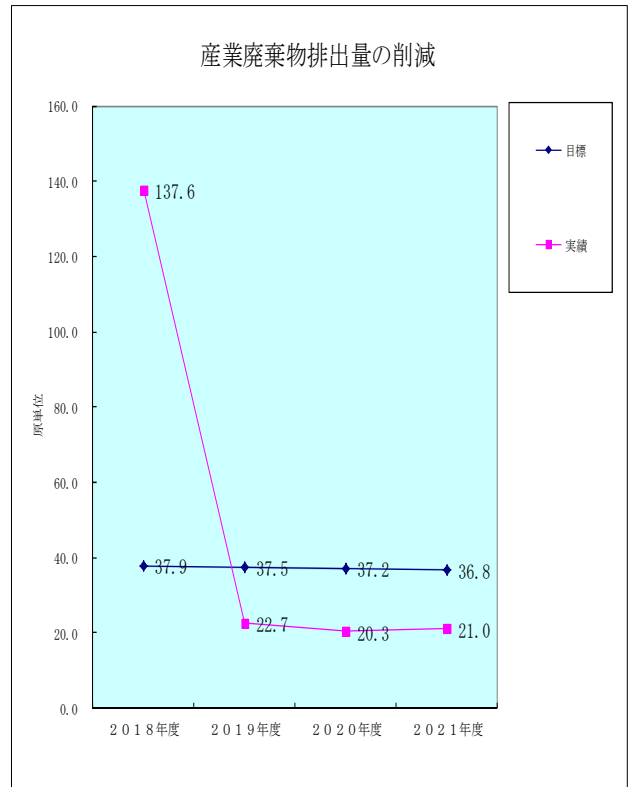
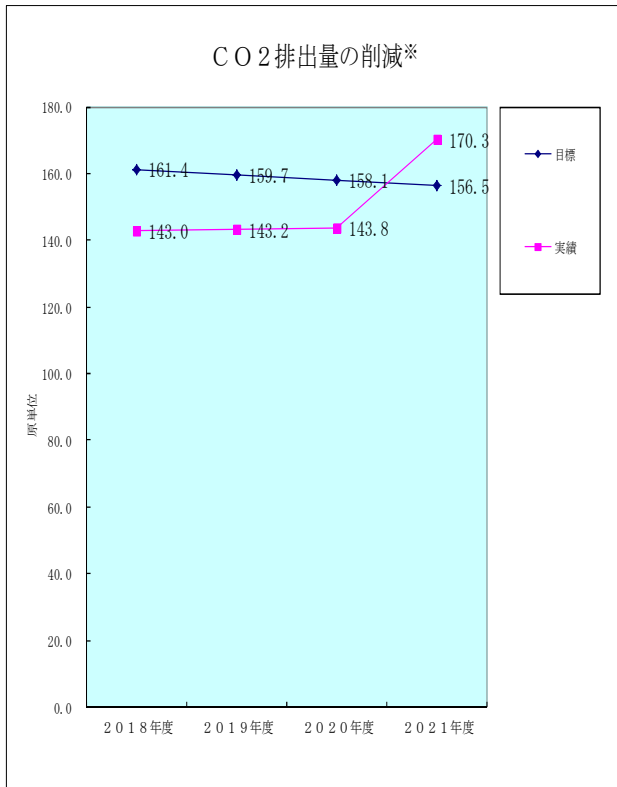
・達成状況（評価は原単位で行った）

○：達成 ×：未達成

目的		基準 2017年度	目標※1 2021年度	実績 2021年度	評価
CO2排出量の削減	重量 (kg-CO2)	41,030	39,389	38,533	×
	原単位	163.0	156.5	170.3	
産業廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	9,643	9,257	4,751	○
	原単位	38.3	36.8	21.0	
一般廃棄物排出量の削減	重量 (kg)	1,640	1,574	1,019	○
	原単位	6.52	6.26	4.50	
水総使用量の削減	体積 (L)	120,000	115,200	90,000	○
	原単位	476.8	457.7	397.9	
本業における環境への取組		—	廃消火器、 回収電池の 確実なリサイクル	廃消火器、 回収電池の 確実なリサイクル	○

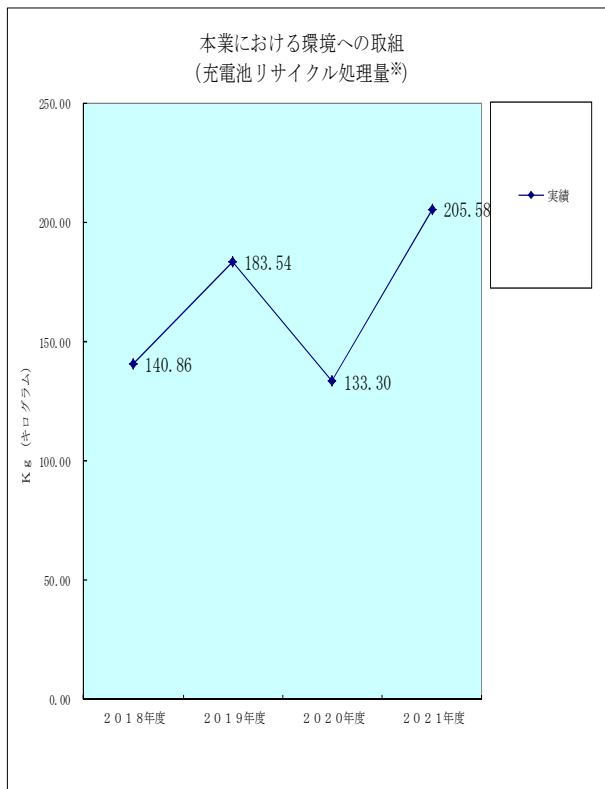
□基準の集計期間は2017年5月～2018年4月 □原単位：排出量/売上（単位は百万円）（基準年度売上は251,666,869円）□電力のCO2発生量については2017年公表、四国電力(株)報告の調整後排出係数0.529(kg-CO2/kWh)を使用した。※1 排出量目標：CO2、産業廃棄物、一般廃棄物、水総使用量は2021年度 基準年比96% □事業活動に伴い取扱われる化学物質は無い為、目的から除外した。

補足資料 グラフ（目標と実績）



※電力のCO₂発生量については2017年公表、四国電力㈱報告の調整後排出係数0.529(kg-CO₂/kWh)を使用した。

補足資料 グラフ（実績）



※リサイクル機関へ送付した総重量を表した。

7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営目標 及び環境経営計画

CO2排出量の削減	
評価結果	<p>×：目標値を達成せず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「電力及び灯油の消費量に関する取組」「ガソリン消費量に関する取組」を含め、計10項目の取組を行った結果、目標値を達成しなかった。<u>目標：原単位156.5 実績：原単位170.3</u> ・総排出量は 35,500kg-CO2（2020年度） から 38,533kg-CO2（2021年度） へ 原単位実績も 143.8（2020年度） から 170.3（2021年度） へと増加した。
次年度及び目標計画	<p>現在の内容を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022～2025年度の中期目標は、2021年度の実績を基準に設定し、年1%ずつの削減を目標にしている。 ・良い発案が出れば、年度途中であっても新規取組活動を追加する。

産業廃棄物の削減	
評価結果	<p>○：目標値を達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計1項目の取組を行った結果、目標値を達成した。<u>目標：原単位36.8 実績：原単位21.0</u> ・総排出量は 5,003.70kg（2020年度） から 4,750.50kg（2021年度） へ減少 機器取替、工事ともにアスファルト、コンクリートなどの重量物の廃棄が伴わない作業内容であった。
次年度及び目標計画	<p>現在の内容を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022～2025年度の中期目標は、2021年度の実績を基準に設定し、年1%ずつの削減を目標にしている。 ・良い発案が出れば、年度途中であっても新規取組活動を追加する。

一般廃棄物の削減	
評価結果	<p>○：目標値を達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計1項目の取組を行った結果、目標値を達成した。<u>目標：原単位6.26 実績：原単位4.50</u> ・総排出量は 661.00kg（2020年度） から 1,019.00kg（2021年度） へ大幅増加した。
次年度及び目標計画	<p>現在の内容を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022～2025年度の中期目標は、2021年度の実績を基準に設定し、年1%ずつの削減を目標にしている。 ・良い発案が出れば、年度途中であっても新規取組活動を追加する。

水使用量の削減	
評価結果	<p>○：目標値を達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計7項目の取組を行った結果は、目標値を達成した。<u>目標：原単位457.7 実績：原単位397.9</u> ・総排出量は 107,000L（2020年度） から 90,000L（2021年度） へ減少した。
次年及び年度の目標計画	<p>現在の内容を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022～2025年度の中期目標は、2021年度の実績を基準に設定し、年1%ずつの削減を目標にしている。 ・良い発案が出れば、年度途中であっても新規取組活動を追加する。

本業における環境への取組み	
評価結果	<p>○：目標を達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計2項目の取組を行い、活動目標を達成した。 ・使用済の充電電池、廃消火器は全数リサイクル処理した。処理に伴う不備や事故は無かった。
次年及び年度の目標計画	<p>現在の内容を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い発案が出れば、年度途中であっても新規取組活動を追加する。

資料：環境経営活動の記録



■ エアコンのフィルター清掃
(2021年5月撮影)



■ エアコンのフィルター清掃
(2021年5月撮影)



■ エアコンの室内機清掃
(2021年5月撮影)



■ 水銀使用製品（電球類）の分別廃棄
(2021年6月撮影)



■ 充電電池のリサイクル
(2021年5月撮影)



■ 充電電池のリサイクル
(2021年5月撮影)

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

最新版確認日：2022年4月30日 確認者：松本 聡

法規制名	概要	行動内容	届出	遵守
地球温暖化対策法の推進に関する法律(温対法)	温室効果ガス排出の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 国及び地方公共団体が実施する温室効果ガスの排出の抑制等のための施策に協力する。 事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減に努力する。 	—	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)及び同施行規則	廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ごみの減量と適正分別。産業廃棄物一時保管場所、撤去品置き場、ごみ箱の整理整頓。 排出基準に適合しない廃棄物を排出していない事を確認。 許可を持つ収集運搬業者、処分業者とそれぞれ書面で直接委託契約を結び契約解除後は契約書を5年間保管。 産業廃棄物保管場所へ掲示板を設置、保管基準遵守。 	○	○
	廃棄物の処理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 排出時にマニフェスト伝票を発行し、回収した保管票は内容確認し5年間保存。法定内で回収出来ない場合は状況を確認し自治体へ報告する。(B2/B4/B6/D票90日・E票180日) マニフェスト交付状況を都道府県知事に対し毎年6月30日までに報告。 	○	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	フロン類の大気中への排出を抑制	<p>(使用者、設置者、管理者、点検者となる場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な使用環境が得られる様に適切に設置する。 四半期毎に簡易点検を実施し、その記録を保管する。 <p>(回収業者となる場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一種フロン類回収業者登録の更新 回収、運搬に関する基準に従い処理。 再利用する場合を除き、フロン類破壊業者に引渡す。 回収した際に、引取証明書を交付し、写しを保存。 委託確認書の保存。 回収の記録を行い知事に毎年報告。 <p>(回収を委託する場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器を廃棄する際は、フロン類をフロン類回収業者に引渡す。その際に、委託確認書を交付し、写しを保存。 引取証明書の保存。 解体工事元請業者が行う確認作業への協力。 	○	○
エネルギー使用の合理化等に関する法律(省エネ法)	エネルギー使用の合理化	<ul style="list-style-type: none"> 建物の改修等を行った場合に届出と報告が必要になる。照明、空調等の改修でか該当規模のものがいないか確認。 従業員の通勤における公共交通機関の利用を推進し、輸送に係るエネルギーの使用の合理化を促す。 空調調和設備等工事の際はエネルギーの効率的利用の為の措置を実施し、建築物に係るエネルギー使用の合理化を図る。 	—	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	自動車の適正なリサイクル循環	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル料金の支払い、自治体に登録された引取業者への廃車の引渡し。 	○	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	有用な材料をリサイクルし、資源を有効利用する	<ul style="list-style-type: none"> 家電リサイクル券を購入し指定場所に搬入、又は購入店等に適正な処分を依頼する。(特定家庭用機器:エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機が該当) 	—	○
労働安全衛生法	労働者の安全と健康を確保	<ul style="list-style-type: none"> 医師による健康診断を実施、労働者は受診の義務を負う。 フルハーネス型の墜落制止用器具を使用する。(2022年1月～) 	—	○
大気汚染防止法	国民の健康を保護、生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 特定粉じん(石綿類)排出等を伴う工事を実施する場合、事前調査を行い発注者へ説明しなければならない。工事中は調査結果の掲示を確認。 	—	○

法規制名	概要	行動内容	届出	遵守
浄化槽法	浄化槽の設置、保守について	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽管理者による保守点検及び清掃の実施。 ・法定検査の実施。 	-	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	資源の有効な利用、廃棄物の適正な処理	<ul style="list-style-type: none"> ・該当する規模の解体工事が無いか確認。（解体工事は延べ床面積80m²以上、新・増築工事は500m²以上、補修等は請負代金1億円以上、建築物以外の解体・新築工事等は請負代金が500万円以上）。 ・処理業者への委託等、工事に伴う排出物を再資源化。 	-	○
香川県環境基本条例	環境の保全についての基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・公害の防止その他の環境への負荷の低減、自然環境の適正な保全を講じる。 ・環境負荷の低減、環境保全に積極的に努めるとともに、県が実施する環境の保全に関する施策に協力する。 	-	○
高松市環境基本条例	環境の保全についての基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害を防止し、自然環境を適正に保全するための措置を講じる。 ・環境負荷の低減、環境保全及び創造に進んで努め、市が実施する施策に協力する。 	-	○

- ・今回の活動期間内において、環境関連法規等に関する違反、訴訟は無かった。

9. 代表者による全体評価及び見直し・指示※

(全体評価)

昨年に引き続き、社内全体で活動に取り組んだ。今期は5項目の取組中4項目で目標値を達成した。

・各取組について

CO₂排出量削減：目標値を達成せず。

電力使用量は前年度比 約6%増。冬季の外気温が低かった事、暖房中の換気も使用量増加の要因となっている。

ガソリン使用量は 10,490L (2020年度) → 11,506L (2021年度) と増加。社員数増加により作業車両の稼働率が上がった為とみられる。

産業廃棄物の削減：目標値を達成した。

修繕作業に伴う撤去品が 2,454kg (2020年度) → 4,546kg (2021年度) と約倍増。代わりに工事現場搬出分が 2,550kg (2020年度) → 205kg (2021年度) と大幅減少した。

現場工事ではアスファルト、コンクリがらなどの重量物の廃棄がなく、撤去機器 (照明器具) などの軽量な物が中心であった。

一般廃棄物の削減：目標値を達成した。

排出量は 661kg (2020年度) → 1,019kg (2021年度) と増加。書庫の整理に伴うまとまった廃棄があった事が増加要因である。

水総使用量の削減：目標値を達成した。

使用量は 107,000L (2020年度) → 90,000L (2021年度) と約16%の減少。

これまで年間消費量が100,000Lを下回る事はなかったが、2階のトイレを節水タイプにした事で、大きな成果をもたらした。小さな積み重ねが実を結んだ結果である。

本業における環境への取組：目標を達成した。

使用済み電池については確実にリサイクル処理出来ている。

廃消火器についても保管中の放出事故、及び処理手続きの不備は発生していない。

(見直し・指示)

・現在の取組において目標の設定方法、レベルに問題はなかったか？

今期は「CO₂排出量削減」において目標値を達成しなかった。実績と目標値に大幅な乖離が見られた状態では無いので、設定レベルに問題があったとは捉えていない。

・目標を達成できなかった原因

コロナ対策の為、換気と室内温度調整を同時に行った事。従業員数の増加により、待機車両の減少が生じた為に電力、ガソリンの消費が増加した。

・経営環境システムは有効に機能しているか？（変更すべき点はあるか？）

経営環境システムは実施体制を含め有効に機能しており、現段階で変更すべき点は無い。

・次年度以降の環境目標の策定と取組内容について

今回は活動方針の大幅見直しは行わない。
次期中・長期目標は、2021年度の結果を基準とし年1%ずつの削減とした。
取組内容については、年度途中で良い発案が出れば新規取組活動を追加する。

(※実施日：2022年7月1日 実施者：代表取締役 松本寿)